
理事の独り言



『日々是好日』

日本赤十字放射線技師会
常任理事（事務局） 磯田康範
所属：松江赤十字病院

平成19年6月より今年度で2期目を迎えて、陰日向で黙々と事務局を担当させて頂いております磯田康範(いそだ やすのり:松江赤十字病院)です。担当させて頂いた当初は、五里霧中で当惑して何をどう行なうべきなのか悩んでおりました。しかし、緒先輩が築きあげた軌道をたどることで、どうにか発進することができました。活動の基本は、如何に会員の皆さんが技師会の情報を適確迅速に共有することができるか、双方向の連携を重ねるにはどうすればいいか議論を重ねて参りました。全国組織ですから頻りに理事会の開催は困難であることから、メールで会議をおこない、各理事のコミュニケーションを密にして、技師会の運営に厚みと幅をもたせる機動性の向上を図るようにしました。そして、ニュースなど情報伝達の即応性と、ユビキタス時代にふさわしい情報化の共有化を行うため、時代に合わせて会則の規約改正などを図りました。これは、医療の発達と成熟の都度、諸先輩が手直して来られた延長線上にあることでした。技師会のホームページも大改訂を行い、CMS(コンテンツマネジメント)搭載して、会員相互、会と会員の二人三脚態勢が出来て、情報の双方向性の共有が実現できました。事務局は、組織部(IT事業部)や財務部(会費納入)と共に、このシステムを有効かつ適正に活用して頂けるよう連携を取っています。毎年約50余名の新入会員登録や、ID、パスワードの発行、そして会員の異動など迅速に対応できるようになりました。しかし、会員の皆さんの中には、未だにホームページを開くことをしなかつたり、会員専用(要認証)欄を開くためのID・パスワードを知らないといった事例が発生しています。これら周知不足を解消し、我々の会費で構築した会員みんなのホームページを、効果的に閲覧し、利用していただきますように、メーリングリストやメールニュース、技師長・課長メーリングリストなどを利用し、会員全員に適宜周知できるようにしていきます。

本社医療事業部との接点は大変重要でありまして、大型医療機器共同購入、医療安全推進、医学総会、研究費、そして、業務研修会から学術総会への名称変更の理解と、この開催に伴う全国医療施設長へ技師の派遣依頼など、日々医療事業部と連絡を密に取合っております。その緊密的連携の状況の中、今年度は、学術総会の会場を本社から東京国際フォーラムに移して開催(本社工事が重複しておりました)できました。医療事業部次長が本社以外で講演する事も異例な出来事でした。日本赤十字放射線技師会は、学術団体でも職能団体でもありません。法人組織でもなく、日本赤十字社の放射線技師社員の集まりです。そこでの態勢的自由度、枠組みの利便性を享受しなければいけないと思います。未だ、他の団体と同じと考えている

会員が多いのが少し残念です。学問的な資格や社会的地位を求めるなら他の団体に所属して頂く、しかしこの技師会では 1300 余名の豊富な人的資源をもとにして、その技術・知識を活用し職場での立場を確保、地位向上に活用するものであると思います。自身の職場で立場を固め、存在感を高め、学術的に活動が認知され、将来に向けて活躍しやすくなることを考えて頂きたいと思います。これらの点からも本社との密接な連携は必要不可欠であると考えています。この技師会の存続と活性の模索を、役員一同熱く議論しております。結果ではなく正解を求める姿勢。何が正解だったか、成果や結果が後に検証する。そのために次善を求めて今、最善を尽くす、最悪を覚悟して最善を尽くす。この2期では色々を経験させて戴きました。そのなかで、緒先輩の軌跡をたどっているうちに「再発見、再点検、再選択」という言葉が生まれました。[日々是好日 一ニチニチコレコウニチー]充実した日々を過ごしながら、これからの技師会のために、更に省みながら整備しながら進んで参りたいと思います。我々の前には道は無く、我々の後に道は生まれる。会員の皆さん何卒宜しくお願い申し上げます。